

養殖漁業

～タイから真珠まで……各地区でさまざまな育てる漁業～

玄界灘に面して好条件の漁場が広がる唐津・東松浦地方は沿岸、沖合漁業が営まれている。一方、漁業資源の減少、漁獲の不安定などから、獲る漁業からつくり、育てる漁業に取り組む漁業者が増えて、玄海沿岸ではさまざまな水産生物の養殖漁業が行われている。

佐賀農林水産統計年報（平成17～18年）によると、玄海沿岸ではブリ類、マダイ、マアジ、トラフグなどの魚類のほか、クルマエビ、カキ、ワカメ、ウニ、アワビ、真珠など（アコヤガイ）いろいろな種類が養殖されている。

魚類ではマダイの生産量が最も多く、ブリ類が続いている。しかし、マダイも価格低迷などで生産高は減少傾向を続け苦戦を強いられている。

玄海地区の真珠養殖は約40年の歴史を持っている。唐津市肥前町の大浦や菖津地区などでアコヤガイに真珠の核を入れ、貝の汚れを取り除いたり、育成場所の移動や水深の調整をしながら丁寧に育てている。美しい海に好環境で育つ玉への評価は高いですが、こちらも景気低迷の影響で相場の安値傾向が続いている。

浜玉町の浜崎漁協は歳暮時期を狙ったクルマエビの出荷で実績を上げている。1991年（平成3）からクルマエビの養殖に取り組んだ。体長1匁の稚エビを仕入れ、養殖池で15匁ほどに育て出荷する。浜崎海岸はかつては地引き網やきんちゃく網が引かれ、ノリ養殖に変わり、さらにクルマエビの養殖に移った。

高級食材のアワビ養殖に昭和50年代から取り組んでいるのが鎮西町漁協である。肉厚の柔らかい小さめのアワビを養殖している。2005年（平成17）には総務省の地域の逸品に選定されている。

カキの養殖は有明海でも行われているが、唐津の海でも身の詰まった濃厚なカキが養殖生産されている。唐津市漁協唐房支所の「からつんカキ」は徹底した品質管理で人気を高めている。1995年（平成7）からマガキ養殖を始め、国内でいち早くオーナー制度を導入し注目を集めている。

板ノリは佐賀県産（有明）が日本一の座を守り続けているが、玄海地区にもノリ養殖の歴史があったことを忘れてはならない。特に松浦川河口から唐津湾一面にノリヒビが広がり、最盛期の1979年（昭和54）の唐津湾のノリ販売高は7億2千万円に上ったが、冬場の悪天候により施設の破損が相次いで次第に衰退、15年ほど前に姿を消した。

分野 産業

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



浜崎海岸沿岸にある車エビ養殖場
（『唐津探訪』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆第53次佐賀農林水産
統計年報（水産編）

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html